

エコな移動：スマートムーブのススメ

群馬県は1人当り自動車保有台数が全国1位のマイカー王国で、運輸部門からの二酸化炭素排出割合が全国に比べて7ポイント以上高くなっています。

パーソントリップ調査では、県民の4人に1人は100m以内の移動でも車を使う一方で、85%の人は年間に一度も路線バスを利用したことがないという状況です。

群馬県が無料で提供している検索アプリGunMaaSを活用して、公共交通や自転車を組み合わせたスマートムーブ（賢い移動）に取り組みましょう。



ごみの減量・リサイクル

群馬県の生活系ごみ排出原単位（1人1日当り排出量）は2022年度に640gで、全国ワースト1が続いています。全国平均（496g）より144g多く、最少の京都府（394g）よりは6割以上多くなっています。

ごみ処理に伴い、収集車両や清掃工場から多くの二酸化炭素が発生し、県全体の排出量の4%を占めています。各家庭でごみの減量やリサイクルに努めることは、地球温暖化対策のためにも有効です。特に可燃ごみの4割程度を占める生ごみを減らすことは食品ロス削減のためにもぜひ心がけたいものです。

□家庭向けには「**うちエコ診断**」を実施しています。

□事業所向けには「**省エネルギー診断**」と「**環境GS推進員派遣**」をご利用ください。

うちエコ診断
申込フォーム→



←省エネルギー診断



環境GS推進員派遣→

群馬県地球温暖化防止活動推進センター

〒371-0854 前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル6階
電話027-289-5944 FAX 027-289-5945
e-mail: info@gccca.jp URL <https://www.gccca.jp>



「気候非常事態宣言！」

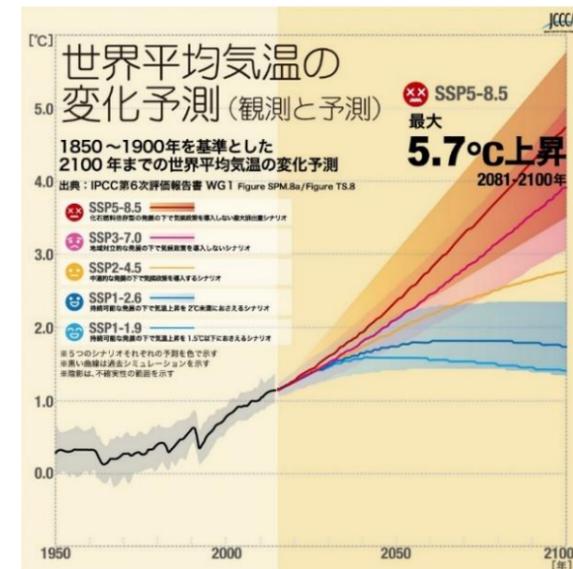
待ったなしの地球温暖化対策

気温上昇と気象災害の激甚化

世界の平均気温は100年あたり0.76℃の割合で上昇し、特に1990年代半ば以降は高温となる年が多くなっています。

産業革命前からの気温上昇を1.5℃未満に抑えようというパリ協定の目標を上回る気温上昇が既に起きています。

前橋でも7・8月の平均気温は1970年には25.1℃でしたが、2023年には29.0℃と4℃近く上昇。猛暑日も3日から33日に、熱帯夜は1日から36日に増加しています。



2019年の台風19号では利根川本流での洪水被害はありませんでしたが、県内各地で支流の氾濫や内水氾濫が発生しました。

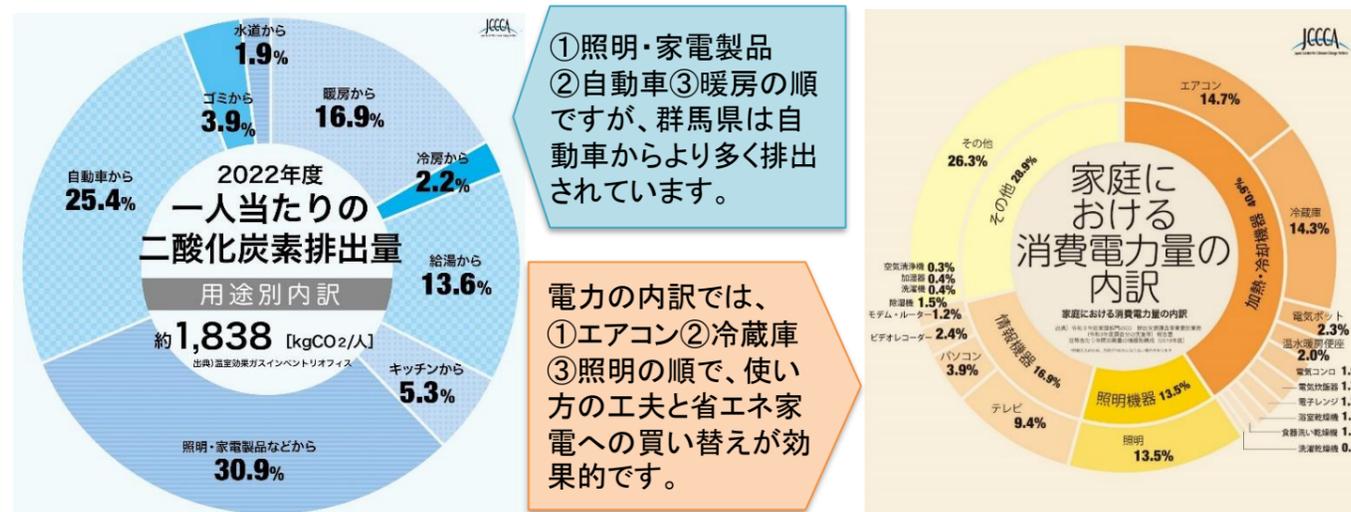
世界的にもスペインの洪水やロスアンゼルスでの激甚火災など、気候変動に起因すると思われる気象災害が多発しています。

家庭も事業所も本気の対策が必要です！

緩和策（ブレーキ）：省エネルギー・創エネルギー（再エネ）・吸収源対策など

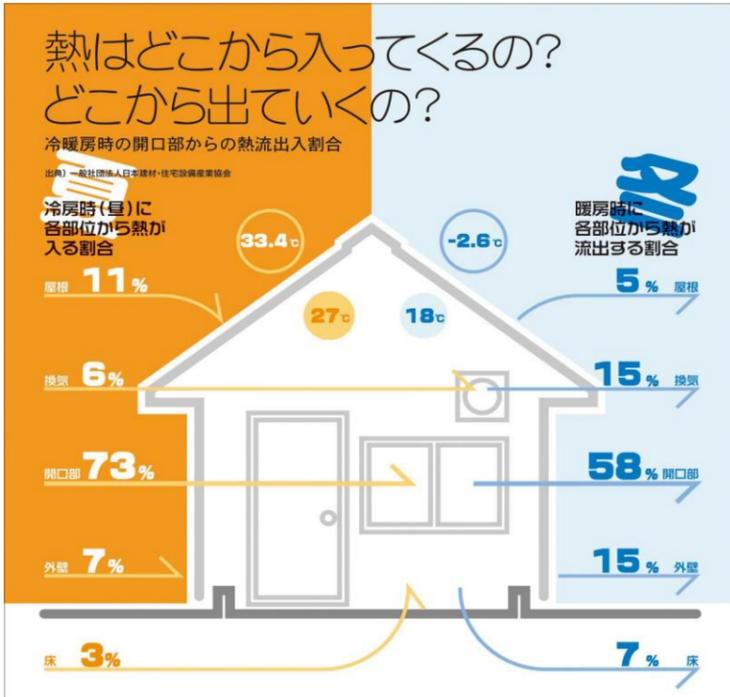
適応策（被害軽減）：防災マップ・避難経路の確認、熱中症対策、浸水対策など

※まずはエネルギー消費の現状を把握して、対策を検討・実行しましょう！



全国地球温暖化防止活動推進センターWEBサイトより

住まいの省エネ対策



窓の対策が決め手

夏 室内に侵入する熱の73%は窓から。直射日光を室内に入れたまま冷房するのはエネルギーの無駄遣いです。カーテンやブラインドはもちろんですが、できればグリーンカーテンやサンシェードなど、窓の外側で日よけするのが効果的。

冬 外に逃げていく熱の58%も窓から。日中は太陽光を取り入れて室内を暖め、日が傾いたら早めに雨戸・シャッターやカーテンを閉めましょう。

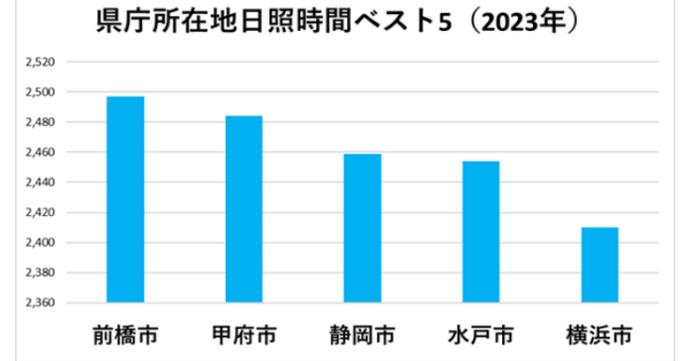
窓リノベ
1枚ガラスのアルミサッシをペアガラスの樹脂サッシに交換したり、内窓をつけたりする窓リノベは費用対効果の高い対策です。補助金も活用できます。

全国地球温暖化防止活動推進センターWEBサイトより

再生可能エネルギーの活用

太陽光発電・太陽熱の利用

群馬県は日照時間に恵まれており、2023年には前橋市が2497時間で県庁所在地のトップとなりました。太陽光発電の売電単価は低下していますが、自家消費を主体にすることで十分投資回収可能です。発電だけでなく熱利用も効果的です。



再生可能エネルギー：太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなど自然由来のエネルギー。県は2035年に再生可能エネルギー比率80%以上を目指しています。「グリーンイノベーション群馬戦略2035」

再エネ電力への切り替え

省エネによって消費電力を削減した上で、必要な電力を太陽光発電の自家消費で賄うようにすると、電力会社から購入する電力を相当少なくすることができます。さらに、購入電力についても、電力会社が提供する「再エネ電気プラン」などCO₂排出実質ゼロのメニューを選択すると、電力消費に伴うCO₂排出をゼロにすることができます。同じことは適切な容量の蓄電池を組み合わせても実現できますが、現時点では蓄電池の価格が割高なため、再エネ電気プランを選ぶ方が現実的と言えます。(参考) 東京電力「アクアエナジー100」 中之条パワー「エネルギーの地産地消」など

冷蔵庫の使い方

2番目に消費電力の多い冷蔵庫。左右に適度なすき間を空けないと放熱が妨げられ、効率が下がります。冷蔵庫は7割程度の在庫にとどめ、冷気の通りをよくしましょう。詰め込みすぎは目的のモノを取り出すために扉の開放時間が長くなることに加え、食品ロスの増加にもつながります。夏と冬で設定温度を変更するのも効果的です。



扉側の両サイドは放熱のため開けておきましょう

省エネ家電への買い替え

モノを長く大切に使うのは良いことですが、エネルギー消費を伴う家電製品や自動車については、標準耐用年数を目安に省エネ性能の高い製品に買い替えることも検討しましょう。
◆10年前の製品と比較すると
【エアコン】約15%の省エネで年4,150円お得
【冷蔵庫】約28~35%省エネで年3,190~4,430円お得
【照明】蛍光灯より約50%省エネで年2,110円お得
白熱電球より約86%省エネで2,880円お得
【出典：スマートライフおすすめBOOK2024】

【参考資料】

先進的窓リノベ2025事業 (環境省)
<https://window-renovation2025.env.go.jp/>

スマートライフおすすめBOOK2024
https://shouene-kaden2.net/recommend_book/



身近な緑を増やそう

グリーンカーテン・カーペット

あるお宅では毎年庭でサツマイモを栽培しています。直射日光を受けた地面 (63.4°C) と日陰部分 (35.9°C) では27.5°Cも温度差が生じました (2021.7.17正午過ぎ)。蓄熱した地面は日没後に放熱するので、夜も気温が下がりにくくなります。庭やベランダなどに植物を増やすことで猛暑の影響を軽減することができます (適応策)。野菜や果物を植えれば、収穫も楽しめて一石二鳥です。緑はCO₂の吸収源であるとともに、野鳥や昆虫など小動物の棲家にもなり、ネイチャーポジティブの30by30目標にも貢献します。



30by30：2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全しようとする目標